

不連続ブログ小説 「頑張れ花子！」

第二話

花子の叫び声を聞いた、同居している義母のケイコが2階から降りてきました。

ケイコは、すっかり手が荒れてしまった花子に、

「子供たちの為に一生懸命、手洗いをしたのね」と、やさしく声をかけました。

「花子さん、私にまかせて！」

ケイコは、なぜか張りきっています。

「ところで、花子さんはどんなふうの手洗いをしていたの？」
ケイコが尋ねると、

「・・・ええっと、まずはお湯で手を濡らして・・・」
と花子が話し始めると、

「ストップ！！！」

ケイコは花子の言葉を遮るようにカットインしてきました。
いつもはつぶらな瞳が、必要以上に見開いています。

「花子さん、お湯はね、皮脂を落とすすぎてしまって手荒れを起こしやすくするから、出来るだけ、水で洗うようにした方がいいのよ！」
ケイコはドヤ顔です。

「それで、手を濡らした後はどうするの？」とケイコが聞くと

花子は恐る恐る・・・

「しっかりと泡立ててから手のひらと手の甲を洗って、指の間も洗って、
親指は付け根からねじるようにして爪先と手首を洗いま・・・」

「オーケー・グーッ！！！」

花子が話し終わる前にケイコからのオーケーが出ました。

「手洗いの手順はバッチリね！流石は花子さん！」

ケイコは矢継ぎ早に話し始めます。

「しっかりと洗った後は、泡もしっかりと流して水分を拭きとることも大切なのよ。」

ケイコの話は止まりません。

「手に残った水分を拭きとる時は、強くこすらずに軽く押し当てるようにしてね。」

止まらねケイコの話しっぷりに、花子はややウンザリしてききましたが、義母が熱く語ってくれているのを無下にするわけにもいきません・・・。

頑張れ花子！ 負けるな花子！

つづく・・・



ケイコ

58歳

花子の義母
温泉が大好き